

1936 - 1969

1970 - 1984

1985 - 1999

2000 - 2009

2010 - Present

1955年11月

ジアゾ複写機の1号機「リコピー101」を発売。事務機器分野へ進出

本機は、2012年度「機械遺産」第54号に認定されました

1950年代後半、「複写する」という代わりに「リコピーする」という言葉が生まれ、複写の代名詞として広く普及しました。そのルーツは、1955年発売の「リコピー101」です。リコピー101とそれに続く一連の卓上型ジアゾ湿式複写機リコピーシリーズは、オフィスオートメーション(OA)のさきがけとして事務作業の合理化に革命をもたらしました。同機は、一般社団法人日本機械学会から2012年度「機械遺産」第54号に認定されました。



現存する最古のリコピー101

事務のオートメーション化のために

品質を誇る
50枚の写しが10分間でとれる……

→ 理研光学の卓上複写機

リコピー

カーボン紙や複写版・タイプライターで写しをとる時代は過ぎました。リコピー1台あれば、10分間に50枚の写しがとれ、しかも極めて安上がりです。そのうえいろいろな書類・伝票・図面などを原稿として、直接写しとれますから、めんどくさい読み合わせの必要もありません。

両面印刷物の複写も
リコピー用フィルター
で簡単にできます

303型 (A3用)	¥ 138,000
505型 (A2用)	¥ 168,000

支店
福岡市東区中洲2の1
長崎市港町135
札幌・仙台・大阪・
名古屋・京都・高山
神戸・岡山

理研光学工業株式会社

販売記入申込次書カタログ請求

当時の広告



続々と生産されるリコピー303・505 (1957年)

関連サイト

リコピー101: オフィスオートメーションのさきがけ

<http://jp.ricoh.com/company/history/2000/ricopy101.html>